

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



**日教組災害対策本部**

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

### 日教組東日本大震災支援ボランティアに参加して

大震災が起こったのは、教員の職に就いて、やっと1年経とうとしていた時でした。当時は、本当に日本で起こっているのかと疑うくらいの映像が毎日テレビで流れているのを、ただただ見ているだけでした。お恥ずかしい話ですが、あの日は、いつもどおりの一日を過ごしていて、その震災を他人事としてしか、とらえることができていなかったと思います。しかし、日が増すごとに、震災の爪あとの深さがあらわになり、ニュースを見るたびに、胸が痛くなっていきました。まさかこんなにひどい状況になっていたとは、思いもしませんでした。何かできることはないかと考え、ボランティアに参加したい、という思いが強くなっていました。しかし時間がないという実情に板ばさみになっていましたし、ボランティアに参加するということは、偽善者になっているような気がして、なかなか打ち明けられずにいました。

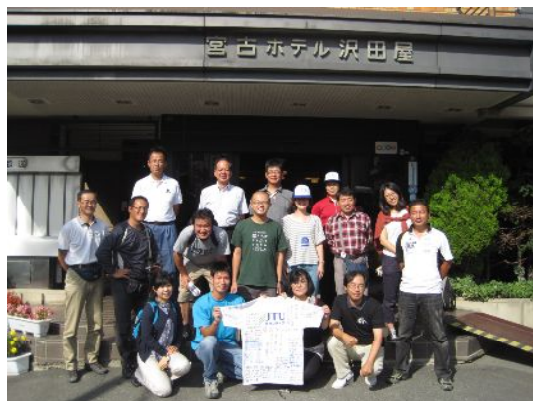
そんな時に、組合の青年部でボランティアの募集をしていることを聞きました。夏休みだったら時間もあるし、ぜひ参加したいと思いましたが、手をあげるのがなんだか恥ずかしい気がして、下を向いていました。そんな時、学校の先輩がさっと手を挙げられていました。「こんな機会めったにないよ。参加するしかないね。」

気がついたらつられて私も手を挙げていました。手を挙げることを恥ずかしく感じていた自分がとても恥ずかしかったです。立候補したのは3人。その内一人しか行けないということになり、遠慮しようとした私に先輩方が、「若いあなたが行きなさい」と背中を押してくださいました。私なんかで本当によかったのかと不安になりながらこのボランティアに参加することになりました。

8月25～29日のボランティアを振り返ってみて、参加してよかったと心から思いました。本当に自分にとって人生が変わる出会いがたくさんあったからです。大きく分けて3つありました。

一つは、震災を受けた人々との出会いです。年配の方から小さい子どもまで、多くの人と触れ合う機会がありました。町を歩いていると、その町内会長さんが声をかけてくださいました。「ボランティアの方々のおかげで、今の生活がある。本当になんとお礼をしたらいいかわからない。できたら何かさせてほしい」とそういわれました。その時に、今までのボランティアにこられた方々が多くいたことを実感しました。また仮設住宅の方々との交流の際、集会室に全国から届けられた手紙や掲示物がはられてありました。「誰かが私たちを応援してくれている。心配してくれている。そう思えるだけで生きる力がわいてくる」そう言われました。花火大会の駐車場整理をした際には、こられた方、帰られる方すべての方から「ありがとう」という言葉をいただきました。この場所に今自分がいられて、本当に幸せだと感じました。自分が何かした、というより、いつも自分が何かいただいて帰るばかりでした。

二つ目は、ボランティアを通して出会った教員の先輩方との出会いです。全国各地から集まった先生方と時間を共有させていただいて、多くのことを教えていただきました。また色々な考え方もたれてこのボランティアに参加されていることを知りました。どの先生も意思をもってボランティアに参加されておられて、とても刺激をいただいたし、もっともっと自分も積極的に動こうと思えました。



最後に、ボランティアセンターでの出会いです。ボランティアに参加しているのは、私たちだけではありませんでした。地元の大学生、東京から家族で参加されている方、そして自分たち自身が被災された人々もボランティアに参加していました。そのボランティアの方々をお世話してくれていたのが、ボランティアセンターの方々でした。控え室には、今までのボランティアの方々の写真や言葉が張られていました。どの顔も笑顔でした。そしてこんな言葉が書かれていました。「何も動かない善人よりも、動き続ける偽善者集え！」動いてよかった。偽善者と思われようが、なんだろうが、私はこのボランティアに参加してよかったと心から思えました。



実際に現場に行ってみて一番に思ったのは、見た目は大分回復しているなということです。しかし、ボランティアに参加してまだまだ支援が必要だということに気がつきました。例えば、仮設住宅に住まれている方々が、この先どこに暮らしていくかということ。また仮設住宅に住まれている方々同士のコミュニケーションをとる場の設置も必要だと感じました。信号がまだ復旧していない地区もあります。流れてたごみの行く末も決まっておらずただ野球場に山積みになっていたところもあります。どれも被災された方だけで、片付けるにはあまりに多くの問題があると思いました。ボランティアに参加した私ができるのは、次のボランティアにこのたすきをつなげていくことだと思います。このつながりがすこしずつ絆に変わっていき、震災をみんなで乗り越えていけるとそう感じています。

みやこの人々の顔が晴れますように。

